

プチ図鑑

兵庫の赤とんぼ



目次 CONTENTS

はじめに	1
トンボとりをしよう	2
童謡のアカトンボ	4
いちばん美しいアカトンボ	6
はねの先が黒いアカトンボ	8
眉のあるアカトンボ	10
湿地のアカトンボ	12
はねが黄色いアカトンボ	13
赤くないアカトンボ	14
アカトンボではない赤とんぼ	15
アカトンボの見わけかた	16

はじめに

トンボは秋の季語になっています。春にも夏にもいるのですが、とりわけ秋には数が多くなり、よく目立つからです。現在でも、稲刈りの頃の田んぼには、たくさんアカトンボがやってきて、枝先という枝先に無数に止まっている姿や、オスメスがつながって産卵をする姿を見ることができます。運動会の練習をしている頃、学校の校庭を、つながったアカトンボが次から次へと横切っていく、そんな姿を見ることも、少なくないでしょう。

兵庫県は、童謡「赤とんぼ」の詞を書いた三木露風の出身地であることもよく知られています。偶然かもしれませんが、兵庫県は、アカトンボの種数が最も多い県の一つです。

ひと口に赤とんぼといっても、いろんな種類があり、田んぼにいるもの、川にいるもの、それぞれに個性があります。

さあ、この小冊子を携えて、野外へ出てみましょう。たくさん赤とんぼたちが、みんなを歓迎してくれるはずです。

トンボとりをしよう!

兵庫県のトンボは 100 種類

赤いトンボがアカトンボ? いえいえ、必ずしもそうではありません。それどころか、赤くないアカトンボもあります。アカトンボでも、羽化してしばらくは、黄色っぽい色をしていますし、メスは赤くならなかったり、オスでも赤くない種類もあります。「どうでもええやん」と思う人もいるかもしれませんが。それでもいっこうにかまわないのですが、いろんな種類がわかれば、野外での楽しみも倍増します。

トンボとりペナントレース

じつは、アカトンボは、よく似た種類が多く、トンボの中でも種の区別が最も難しいなかまのひとつです。トンボをよく知るコツは、ずばり、トンボとりをすることです。じょうずにトンボをつかまえるコツは、ずばり、トンボより速くアミを振ることです。あたりまえのようですが、これには練習が必要です。トンボとりを甘く見てはいけません。

練習は、一人でするだけでなく、ときには何人かで「トンボとりペナントレース」をやってみましょう。

トンボとりペナントレースのルールは簡単です。制限時間は 1 時間。その間につかまえたトンボの種類と数を調べます。種類数とつかまえたトンボの数をかけ算したものが、ペナントレースのポイントです。たとえば、3種類で 10 匹つかまえたとすると、30 ポイントになります。10 匹つかまえてもぜんぶ同じ種類だと 10 ポイントにしかありません。つまり、多くの種類をつかまえると、よりポイントが高くなります。

多くの種類をつかまえるためには、それぞれのトンボの性質をよく知っていなければなりません。ペナントレースを重ねることによって、トンボとりがじょうずになるとともに、それぞれのトンボのすむ環境や、飛び方、止まり方などの性質を、経験として学ぶことができるでしょう。



トンボとりペナントレース スコアシート

選手 小学校 年 組 名まえ

いつ 年 月 日 時 分 ~ 時 分

どこ 市 天気

トンボの種類	オス	メス	?	合計
ミヤマアカネ	7	5		12
マユタテアカネ	1			1
ハグロトンボ	1	3		4
クロイトトンボ	1			1

トンボの種類 トンボの数 ポイント

しゅるい × ひき = てん



何ポイントになるかな♡

アカトンボは秋?

秋によく見かけるのはたしかですが、多くのアカトンボは、梅雨の頃から現れます。アキアカネは、田んぼで羽化しますが、いったん羽化した水辺から離れ、夏の間は高い山の上ですごし、秋になると赤く色づき、里に降りてきます。その他の種類も、羽化後いったん水辺を離れますが、ミヤマアカネは、夏の間も、羽化した水辺の近くにいることが多く、炎天下ですごします。リスアカネやネキトンボは、ほかのアカトンボよりも早く、8月頃には赤く色づいています。反対に、キトンボは、秋になってから羽化し、秋おそくまで活動します。



とまっているよ竿の先(三田市)



成熟したオス(三田市)

アキアカネ (秋茜蜻蛉)*Sympetrum frequens*

体長40mm内外。赤く色づくのは腹部だけで、胸部と顔は赤くならない。メスはほとんど色づかないが、腹部が少し赤くなるものがある。

成熟個体は10月～11月に見られる。6月頃里の水田で羽化した成虫は、高い山で夏を過ごす。ハイカーが夏に山頂で見る無数の赤とんぼの多くはアキアカネである。お彼岸がすぎて秋が深まる頃、彼らはいっせいに里へ帰ってき、稲刈り後の田んぼに集まり、産卵する。

秋になると、田んぼのまわりの、日当たりのよいところにある枯れ枝や「竿の先」にたくさんとまっている姿が見られる。晴れた日の夕方には、オスメスともに活発に飛びまわる姿も観察される。童謡に歌われた赤とんぼは、おそらくアキアカネか、ナツアカネ。



(釧路市)

タイリクアカネ (大陸茜蜻蛉) *Sympetrum striolatum*
アキアカネに似るが、体の色が濃く、はねは黄色っぽい。瀬戸内の沿岸部に多く、広い水面を好む。

稲刈りの終わった田んぼで連結産卵(三田市)
空中から、卵をバラバラと落とす。**ナツアカネ (夏茜蜻蛉)***Sympetrum darwinianum*

体長35mm内外。オスは、顔まであざやかな赤色になり、美しい。メスも腹部は赤くなることが多い。アキアカネより小型で体型は太短く、慣れればシルエットでも判別できる。

成熟個体は9月中旬～11月に見られる。田んぼやため池で夏に羽化した個体は、山に入り、木陰で夏を過ごす。アキアカネほど高い山に上らず、半月ほど早く里に帰ってくる。

ため池や田んぼなどの開けた環境に、ごくふつう。稲刈り後の田んぼにも多く、アキアカネとともに「竿の先」にとまっていたり、連結産卵する姿が観察される。



暑いときはしっぽを太陽に向ける（香美町）



川原の草むらにいる若いメス（宝塚市）

ミヤマアカネ（深山茜蜻蛉）

Sympetrum pedemontanum

体長35 mm前後。はねの先端近くに幅の広い褐色の部分があり、乳白色からピンク色の縁紋とともによく目立つ。さらに、成熟したオスは、顔までまっ赤に色づき、はねの脈もうっすら赤くなる。日本でいちばん美しいアカトンボといわれている。

7月～11月に見られ、山地では8月、低地では9月頃から色づいたオスが多くなる。

アカトンボの中で唯一、流水を主な生息環境としている。棚田の用水路、砂礫質の河川に見られるが、近年少なくなっている。

兵庫県では、六甲山麓と但馬に産地が多く、西播磨、北部丹波、北摂山地にも見られる。



秋に見られる連結産卵（宝塚市）
流れのゆるい岸边に卵を産み落とす



羽化したての個体（宝塚市）
まだ色がうすく、はねはキラキラしている。下の方に見えるのはぬけがら（羽化殻）。

ミヤマアカネは日陰がきらいだ。決して林に近づかず、真夏の炎天下でも日当たりのよい草地に見られる。

ミヤマアカネは、高いところもきらい。たいてい、地面に近い、低いところにある枯れ枝や草にとまっている。

アキアカネやナツアカネと異なり、羽化した個体は、秋になるまで水辺の近くにいることが多い。

ミヤマアカネは、特徴がはっきりしていて、野外での観察がしやすいため、小学校での学習素材としても活用されている。



ミヤマアカネのマスコット「あかねちゃん」
Designed by 清水明音&文美



成熟したオス(一宮町)



やや若いオス(神戸市北区)

ノシメトンボ (熨斗目蜻蛉)

Sympetrum infuscatum

体長45mm内外。「熨斗目(のしめ)」とは織物の模様のこと、腹部の格子状のしま模様から、その名がつけられた。名のとおり、落ちついた和風の色あいが、なかなかにして格調高いアカトンボ。ふつうに見られるアカトンボの中ではもっとも大型で、オスの成熟個体は、黒っぽい。

成熟個体は9月~11月に見られる。

平地から山地まで各地にふつうで、夏の間は、林のふちの枯れ枝によくとまっている。秋になると、アキアカネ、ナツアカネとともに、田んぼにやってくる。



連結産卵(北海道厚真町)
水たまりに産卵にやって来た。



成熟したオス(宝塚市)

コノシメトンボ(小熨斗目蜻蛉) *Sympetrum baccha*

ノシメトンボより小型、リスアカネよりやや大型で、体型は太短い。はねの先の黒斑は大きく、色は濃い。オスは全身が赤くなり美しい。平野部に多く見られ、リスアカネと異なり、明るく開けたところを好む。

リスアカネ (Ris茜蜻蛉)

Sympetrum risi

体長40mm内外。オスは赤く色づくが、頭部や胸部までは赤くならない。Risは西洋のトンボ学者の名。

平地から山地まで各地に見られ、8月~10月に多い。他のアカトンボより早く、8月頃には成熟個体が観察される。

アカトンボの中では、もっとも木陰を好み、開けたところにはあまり出てこない。そのため、あまり目立たないが、木立に囲まれた池にはたいていすんでいる。木漏れ日の当たる枝先にとまり、なわばりをつくっている。ときに、ゆるやかな流れの小川や湿地にも見られる。



はねの先が黒いタイプの若いメス(宝塚市)



成熟したオス(神戸市北区)

マユタテアカネ (眉立茜蜻蛉) ♀

Sympetrum eroticum

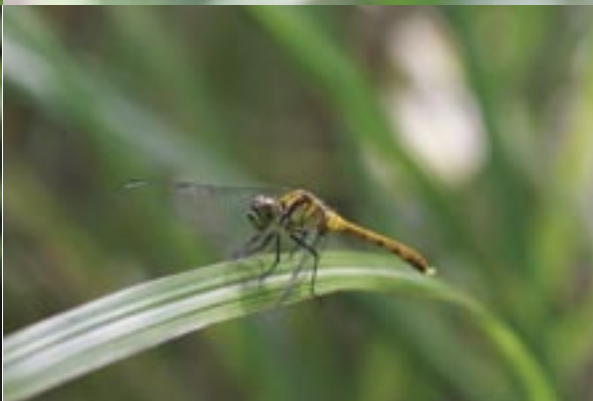
体長35mm内外。顔を正面から見ると、お公家さんの眉のような黒い斑紋があり、「まゆたて」の名がついた。ほかにもいくつか「眉」のあるアカトンボがいるが、本種の「眉」がいちばんはっきりしている。オスのはねは透明だが、メスには、はねの先が黒いタイプと透明のタイプとがある。

成熟個体は、9月～11月。

木立のある池や湿地、山間の田んぼ、流れのゆるやかな小川などにすむ。もっともふつうに見られるアカトンボのひとつ。暑い夏の間は近くの林の中で休んでいる。



はねの先が透明なタイプの若いメス(香美町)



若いオス(芦屋市)

マユタテアカネ (眉立茜蜻蛉) ♂

Sympetrum eroticum

マユタテアカネは、リスアカネに次いで、木陰が好き。林のふちの枯れ枝によくとまっている。日ざしが強いときには、この写真のように、しっぽの先を太陽の方向へ向けて、体温が上がりすぎるのをふせぐ。これは、ミヤマアカネでもよく見られる姿勢である。

オスは夏の終わり頃から赤く色づくが、頭部、胸部は赤くならない。あまり目立たないが、縁紋は赤くなる。